

水産食料品製造業における起因物なしを起因物とする死傷災害発生事例（2017年）

2017年発生月	時間	死傷災害発生事例	年齢	労働者規模
1	9～10	板を両手で挟んで持ち上げ、作業台の上に上げていたとき板が右側へ少し傾き、落とさないようにと右手の方へ力が入り、特に板の下を支えていた右手親指に力がかかり、右手親指の付根の関節がゴツキと音がし、板を置いたあと激痛で作業用ハサミと包丁を握ることができなくなった。	68～29	10
4	0～1	水産加工でマグロの解体をしているとき、左腕の肘から指先にかけて感覚が麻痺を感じ、その後、指が動かなくなった。	62～99	50
5	14～15	当社工場内において、冷凍ホタテが入った段ボール（約16kg）をパレットに積み下ろし作業中、段ボールを持ち上げた時に負傷した。	46～99	50
5	7～8	工場の製造室内で約20kgの解凍中のすり身を持ち上げた時に足に違和感を覚えた。そのあと足が痛くなり、作業ができなくなった。	31～99	50
7	16～17	入社時よりガラスビンのキャップを両手で閉める作業において、両手首が痛くなり後日我慢できなくなった。	32～99	50
7	11～12	加工場の共同加工台で鰹のハランボを並び終え、場所を移動している時に、加工台の足に自分の右足をひっかけ、バランスを崩し左足から横向きに転んだ。その時に左股関節あたりをついた感じになり、痛くてしばらく動けなくなった。	66	1～9
	18～	業務終了後の退社時、社員玄関を出て階段を下りるとき、躓いて左足首を捻ってし		300

7	19	まった。	55	～ 499
7	14～ 15	水産加工場第1加工室において、シイラ（鮮魚）の3枚おろしの作業中、右手人差し指に痺れを感じたが、我慢できないような痛みではなかったため、そのまま所定時間より30分程多く仕事をして帰宅した。原因は、シイラ加工の仕事が多くなり、疲労が蓄積されたためと考えられる。	41	10 ～ 29
9	15～ 16	パレットに12段積み上げられた、氷が入った発砲をローラーに4箱ずつ移す作業を午後行った。作業後背中、腰に激痛、足にしびれを感じたがたいしたことはない様子を見た。	67	100 ～ 299
10	11～ 12	包装作業場にて、から揚げ製品の計量、袋詰めシール、包装作業をしていたところ、次々と流れてくる製品に対応しきれず、袋詰め包装作業する物がたまっている状態となった為、近くで作業していた他の職員とトラブルになり、カッとなったその職員に体当たりされ、転倒し負傷した。	58	10 ～ 29
11	17～ 18	リフター間にて、通常歩行時、足を滑らせ転倒した。尻餅をつく形で後方に転倒したが、転倒した際に右手首を捻り、そのまま作業を続けたが、時間が経つにつれ痛みが増した。診断の結果、右手首の捻挫と判明した。	49	300 ～ 499

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pgm/SHISYO_FND.aspx(職場のあんぜんサイト)

Return to：https://www.jisha.or.jp/international/topics/202206_11.html